

二〇一九年二月一日

春雨の傘をはみだすランドセル
素足なる托鉢僧に風花す
オリオンや底冷えつゝのる通夜帰り
荒縄の井の字井の字に大根干す

せいじ
よう子
はく子
こすもす

二〇一九年一月三十一日

初詣願掛け撫づる力石
海の風集めて猛る浜とんど
乱れなき砂紋にしるき梅の影
剪定を終へて日当たる一山家

そうけい
なつき
よう子
さつき

二〇一九年一月三〇日

牧の朝ジャージー牛の息白し
つんと出て土の匂ひの露の臺
残り火の舌ちよろちよると浜とんど

さつき
宏 虎
なつき

二〇一九年一月二十九日

かばかりの梅園なれど香に満る
命綱結ぶ庭師に雪しまく
亡き夫の遺影と福茶ことほげり

たか子
さつき
そうけい

二〇一九年一月二十八日

淡雪の楚々とふりつむ八つ手の葉
寒晴れや切れ味見せて刃物売る
引き絞る矢羽根を頬に弓始
若布干す島銀座てふ商店街

たかを
菜々々
よう子
宏 虎

二〇一九年一月二十七日

七谷へとどろく法鼓初不動
海猫に綺羅なす冬日船溜り
日脚伸ぶ仕事帰りの美術館

菜々々
なつき
さつき

二〇一九年一月二十六日

替へに替へ最後は禰宜と鷺替ふる
ストーブ燃ゆ娘が児にうたう子守唄
みりん干し焼けば起き出すかじけ猫
鈍色の景白変す今朝の雪
仕事なし終へ待春の髪を切る

うつぎ
なつき
素 秀
明日香
せいじ

毎日句会みのる選・二〇一九年二月三日